

京都大学人文科学研究所共同研究 最終報告書

1. 研究課題

芸術と社会—近代における創造活動の諸相—

Art and Society: Aspects of Creative Activities in the Modern Times

2. 研究代表者氏名

高階 絵里加

TAKASHINA, Erika

3. 研究期間

2020年4月-2024年3月

4. 研究目的

芸術を歴史・文化・社会との関連からより多角的に考察する研究は近年活発化しており、たとえば美術の分野においては、作家・作品研究を基本として、さまざまな芸術運動、都市文化や生活文化との関わり、美術市場の変遷、文化支援、ジャーナリズムと批評の発達、広告と美術、展示空間の多様化、博物館・美術館活動のひろがり、美術受容者の研究等、多様な方法が試みられている。本研究会もその一翼を担うものとして、美術を中心に、歴史、文学、映像、デザイン等の分野の研究者にも加わっていただき、広い意味での近代における芸術作品・芸術家と社会の多様な結びつきの一端を明らかにすることをめざす。基本的には、具体的な作品や資料、あるいは作家や出来事を素材として、社会の中での芸術の諸相を考えたい。場合により研究会の場を美術館や博物館に移し、展示や展覧の場をフィールドとする研究会も行いたいと考えている。

In recent years, there has been a growing amount of research to examine art from a more multifaceted perspective by looking into its connection with history, culture, and the society. For example, while conducting research on artists and artworks is fundamental to the field of art, a variety of other approaches to the subject are also being examined, such as, various art movements, urban and lifestyle culture, the shifts in the art market, changing patrons, cultural support, development of journalism and critiques, advertisement and art, diversification of exhibition spaces, widening activities at museums and art galleries, as well as research on recipients of art. This joint research project will contribute towards this effort by inviting researchers from other fields catering to art, such as that of history, literature, film, and design to participate in workshops which attempt to clarify, in a broad sense, the various segments of connections that artworks and artists have with our society in the modern age. Essentially, we would like to explore the various aspects of art in the society by examining specific works

and materials, or perhaps the artists and events. Depending on the situation, these meetings will be conducted at an art gallery or museum and make the area where displays and exhibits are held as the place of study.

5. 研究成果の概要

本研究班は、2020年4月から2024年3月まで4年間にわたり開催された。研究班の立ち上げがコロナ禍と重なり、実際には約半年遅れての2020年9月からの開始となったが、約3年半の期間に計31回の研究会を開催した。いずれの報告も作品と資料に基づく実証的な分析と考察を経て、新たな知見をもたらす学術的刺激に富むものであり、発表後に芸術と社会に関わる活発な議論が交わされた。31回の研究会の内容は、大きく4つにわけることができる。第一に芸術体験の現場—寺社、展覧会場、陳列所、美術館、博覧会、文化機関など—と芸術が築いてきた関係について、第二に芸術支援、芸術団体、国際交流、技術革新など芸術を取り巻く社会環境について、第三に宣伝、広告、複製、ジャーナリズム、アーカイヴといったメディアと芸術とのさまざまな関係について、第四に戦争、疫病、急速な機械化など、社会の危機における芸術についてである。とりわけ近代を中心とする芸術と社会に関するさまざまな位相が明らかになったこと、諸芸術に通底するあるいは諸芸術間で異なる社会状況と芸術との関係性についての知見を得たこと、また実際の資料や作品にもとづく研究により新たな歴史史料や芸術作品の発見があったこと、これらが本研究班の研究成果であったといえる。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績

なし

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究成果は、研究会で発表された内容を中心とする論文集として出版の予定である。